



やまね便り

私の本棚のどうしても手放せない一冊

金田一春彦記念図書館で
ぼくと妹と弟が
かくれんぼ
ど〜こだ?




金田一春彦記念図書館
Photo:K.Taniguchi

熱血!
新米司書
シショコが行く!



本のある風景

一度は食べてみたい絵本の中の…
コラム：ぶ厚ければぶ厚いほど幸せなもの

私の本棚の

“断捨離”“こんまり流片づけ”“ミニマリスト”“終活…”

どうしても手放せない一冊



「片づけなければ…」と思わせる言葉が何度となく流行しても、絶対に手放せない本がある。そんな、思い入れのある一冊を図書館員に聞いてみました。

本棚ではなく
ポケットにねじ込んで
持ち歩くべき一冊

『旅をする木』
星野 道夫／著 文藝春秋

もう何度読み返したことだろう。山小屋の暗いランプの下で、山頂近くに張ったテントの中で、そして自分の進路に自信が持てなかった30代の頃に…。いつ手にとっても心を落ち着かせ、背中を押してくれる、私にとっては相棒のような本。



ウヒアハって
言いづらいけど、
なんか言っちゃう

『11ぴきのねこ』シリーズ
馬場 のぼる／著 こぐま社

子どもの頃、一番好きだった絵本は、愛着がありすぎて手放せないし、今も11ぴきのねこたちのアッケラカンとした生き方に癒されています。



古びても
手放せない
お守り

『氷点』
三浦 綾子／著 角川書店

高校時代、三浦綾子作品を愛読していた。大学受験の試験科目に小論文があり、『氷点』を引用して論題に答え、合格を得た。「原罪」「罪の赦し」をテーマにしたこの本は、読み返す度、私の心を試しているかの様。



いつか
読み解きたい
大切な本

『星の王子さま』
サン＝テグジュペリ／著 岩波書店

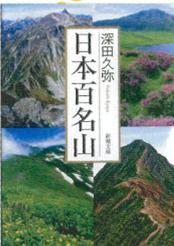
10代の頃、友人から誕生日に貰った本。難解で挫折したが、あまりにも有名で素晴らしいと評判の本なので、いつか大人になったら読み解けるのか？と思い手放せなかった本。…やはりいまだに難解である。トホホ（涙）



楽しみと
あきらめと
思い出が詰まった本

『日本百名山』
深田 久弥／著 新潮社

山に登る人がいつの間にか意識してしまう「日本百名山」。自分はいくつ登ったか？が気になり、数えてみる。もっと登った気がするのに3分の1…この先いくつ登れるだろうか？ガイドブックと共に手放せない山の本。



当時の私にとっては
大きな買い物でした

『指輪物語（9巻セット）』
J・R・R・トールキン／著 評論社

子どもの頃から大好きな映画の原作。特典の「中つ国」の地図と、箱のデザインに惹かれて、学生のときに思い切って新品を購入。詩の表現が難しく、思いのほか時間がかかっているが、いつかは彼らの旅の最後を見届けたい。



丘の上の王子さまに
会いたくなったら

『小説キャンディ・キャンディ FINAL STORY上・下』
名木田 恵子／著 祥伝社

幼い頃夢中だったマンガ。全巻揃えたはずなのに、手元にあるのは4巻だけ。大人の事情によりマンガは絶版。絶望の淵に立たされた私の前に現れたのは小説版。今度は絶対に失くさないと、丘の上の王子さまに心から誓う私なのです。



離れても
巡り逢う
運命なのだ。

『くまのコールテンくん』
ドン・フリーマン／さく 偕成社

小さい頃に何度も読み返しお気に入りだった絵本。大人になってふと読みたくなり、家中を探しても行方不明。もう一度買おうと思っていたら、あるイベントで偶然この本を発見。なんて素敵なタイミング。もう手放さない！



『山梨の気象』
NNS日本ネットワーク
サービス気象情報室/編
山梨日日新聞社



『線状降水帯』
小林 文明/著
成山堂書店



『天気予報が
楽しくなる
空のしくみ』
荒木 健太郎/著
朝日新聞出版

気象を学ぶ



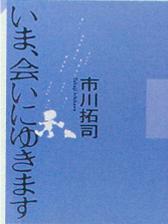
『極端豪雨はなぜ
毎年のように
発生するのか』
川瀬 宏明/著
化学同人

雨が印象的

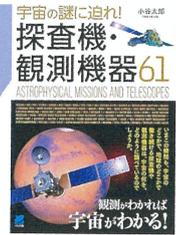
なにアレ？



『まちの
ナニコレ？
図鑑』
小学館



『いま、会いに
ゆきます』
市川 拓司/著
小学館

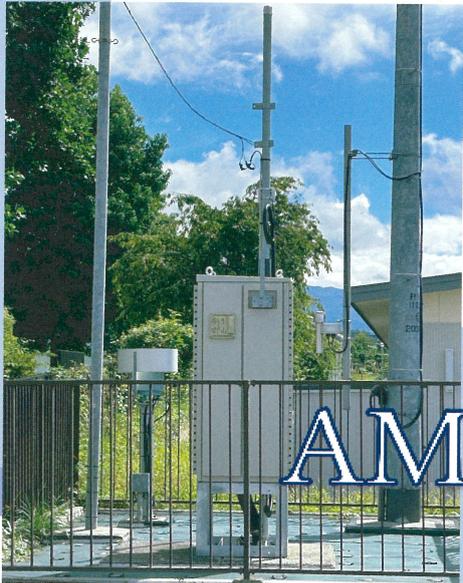


『宇宙の謎に迫れ！
探査機・観測機器61』
小谷 太郎/著
ベレ出版

観測を知る



『ようこそ！
富士山測候所へ』
長谷川 敦/著
旬報社



AMeDAS



『「天気が悪いと
調子が悪い」を
自分で治す本』
佐藤 純/著
アスコム

その不調もしかして…



『気象病
ハンドブック』
久手堅 司/著
誠文堂新光社

本の通りで作ってみよう

しろくまちゃんのほっとけーき



あこがれの
しろくまちゃんの
8枚重ねの
ホットケーキ！



『しろくまちゃんの
ほっとけーき』
わかやま けん/作
もり ひさし/作
わだ よしおみ/作

市販のミックス粉は使わず、しろくまちゃんのように粉とふくらし粉をふるい、生地を作るところから開始。今回は溶かしバターも加えてみました。気合をいれ、フライパンを2つ使って1枚ずつ焼いていくと…焼きムラができたり、欲望が上乘せされてサイズが大きくなったり、よそ見をしたら焼き色が強めになったり…。(焦げたとも言う)

焼いているときのほかほかいいかおり！しあわせ～ばたぁん、ぶつぶつ、べたん、ふくふく…絵本に登場するかわいい音が本当に聞こえてきそう。いろんな形、いろんな色、みんな違ってみんないい！(無理矢理)8枚のホットケーキが完成。バターとはちみつ、た～っぷりかけておいしくいただきました！(8枚一気はさすがに無理でした笑)

焼き色をムラなく作るコツは、テフロン加工のフライパンで油を引かずに弱火でじっくり焼くこと。ぜひお試しください！(現実的)

再現度★★★★
味★★★★
難易度★★☆☆
満足度★★★★

本のある風景

北杜市大泉町内のある場所に、ひっそりと佇む観測機器がある。その名は「アメダス」。地域気象観測システムだ。天気予報などで報告される大泉の気温や降水確率などのデータは、ここで観測されたものなのだ。毎日の生活に欠かせない気象情報を提供してくれる有難い存在のアメダスは、今日もひっそりと大泉の気象を観測している。

それはまるで、ぶ厚いパンケーキを前にしたようなわくわく感

ぶ厚ければぶ厚いほど、幸せになるもの——牛タン、ふわふわのパンケーキ、そして本。

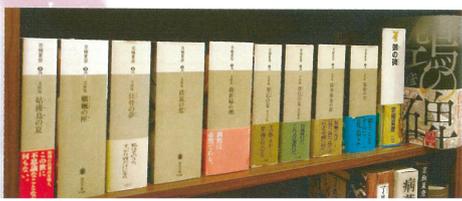
図書館や書店に行くと、ビジネス書や小説のコーナーで辞書の様にぶ厚い本を見かける。これらの本は、その厚く重厚な見た目から「鈍器本」と通称される。ちょっと物騒な名前だが、実際に本を見れば納得するだろう。近年では、鈍器本がベストセラーにもなった。(『独学大全』読書猿・ダイヤモンド社)

ぶ厚い本が私は好きだ。きっかけは京極夏彦。名実ともに鈍器本作家として有名である。著作のほぼ全てがぶ厚い。「百鬼夜行シリーズ」を図書館で見つけたときには衝撃を受けた。シリーズ1巻の『姑獲鳥(うぶめ)の夏』でこそ文庫版で2.5cmの厚みだが、他の巻はかなり厚い。因みに第5巻の『絡新婦の理(じょろうぐものことわり)』(文庫版で1374頁・厚さ約5.8cm)は、日本一ぶ厚い文庫本と言われている。

シリーズを本棚に並べたところを見てほしい。もう、眺めているだけで、わくわくする。そう、それはまるで、ぶ厚いパンケーキを前にしたときのように…



＼積んでみた／パンケーキタワー！！



ぼく SNS やってるよ

のぞいてみてね。

みんなへ、ぼくがX(旧ツイッター)で発信している情報、見てくれた～？
今回は、毎月発信しているオススメ本の情報を紹介するよ！

今回特に紹介したいのがこの2つ！！

鉄板本を紹介する“どど～んとおすすめ本”と
ちょっとくせありの隠れた名作を紹介する“コンっとおすすめ本”だよ。

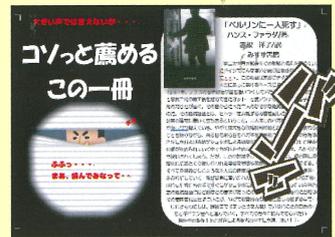
おすすめしてくれるのは、何を隠そうたま森の図書館の何でもこなす(スーパーイケオジ)司書さん。どれを読んでも間違いなし！今まで手を出すことのなかったジャンルの本もたくさん紹介しているので、ものは試しに読んでみてほしいな！！きっと新しい本との出会いが待ってるよ。情報は1ヶ月毎に更新！！お見逃さないように、Xをチェックしてね。

以上、どど～んとコンっとの2つ、たくさんの人に知ってほしいなって思ってたんだ！紹介できて満足、満足、大満足♡

ちょっとまって～！！ やだ！や・ま・ねちゃん！わたしのコーナーも忘れちゃだめじゃない！！

あたしの推し本を毎月紹介している“**今月のシショコ推し**”をお忘れじゃなくって！あたしのおメガネに適ったすんばらしい本が目白押しよ～
あたしの本棚でフォロワー数も爆上がりね！ピンキライン！！「やまねちゃん、そこどころよろしくて。心してつぶやくことがよらしいのよ。あたしのおとを追ってらっしゃい！ ツカツカツカツカ…」

🎀 (なりきり、おちよ～ふじんのシショコであった。)



新米司書・シショコが行く！

あたしは、シショコ。この図書館に勤め始めてまだ3ヶ月…まだまだわからないことばかりだけれど、今日も元気にがんばるぞ～

あたしは、シショコのせんぱい。司書になって今年で10年。かわいい後輩が入ってうれしいわ。さあ、シショコ、今日もピシバシしくわよ～

*今はお昼の休憩時間。めずらしく本を手に取りながめては、はあ～…とため息をつくシショコさん。

「シショコ！あんたどうした？珍しいわね、本を読んでため息なんて…知恵熱でもでたの？」

「ちょ、ちょっとせんぱい！なに失礼ぶっこいてんですか！あたしだって本ぐらい読みますよ～。それよりもせんぱい、これ知ってますか？」

「うん！？ああ…俵万智のサラダ記念日。なつかしい本読んでるな。」
「もう、これたまらないんです～ ウルウル キラキラ
『会うまでの時間たっぷり浴びたくて各駅停車で新宿に行く』…んだなんて！！
きゃ～きゃ～ 短歌ってこんなにもせつない乙女の心を描いているんですね！！」
「うん、そうね。俵万智さんの短歌は、日常のなにげない風景をさらっとすくって表現してくれる魅力があるわね。あんた、ま・まさか…短歌にはまったの？」

「そ～なんですよ～せんぱい！！今一生懸命ノートに書き溜めているんです♡ウァッ エヘツ、聞きたいですか～？」

「いや、いい！即答 仕事があるので失敬！シユタツ！」
「ガッ！ちょ・ちょっとまってください～せんぱい！損はさせませんって～」
「おまえ、キヤッチセールスみたいだな。まあいい、んじゃ聞いてやるから早く読め！」
「えっへん！ では。」

手遊びの練習してたら指つた いって！と立ったらふくらはぎもつた
こどもの作文か！
漬物を漬ける重しが見当たらないと思ったら百科事典がちょうどいいかも
おまえ、それでも司書か！！
やまねはね冬は丸まり冬眠よ！あたしも真似して冬休みする。
ちゃんと、はたらけ！

「ど・ど・どうです～？こいつなかなかのものかも！なあ～んて思ってますう～？
ど・う・し・よう～ 歌人としてデビューなんかしちゃったりして！ルルル～ラララ～」
「あんたねえ～妄想は勝手だけれど、あんたの歌は短歌じゃないわよ。ただの作文じゃない。もっとこう簡単には言葉に表せない気持ちを伝えるものを表現しないと…」
「また、また～せんぱい！あたしの才能に嫉妬してるんですね～オーッホホホホ なんせこ～んなすんばらしい歌があたし、次から次へと浮かんでくるんですから！！」
「だめだ…手に負えん。ほっとこう…カッカッ…」

「う～む…そうかあ～気持ちを伝える表現があ～せんぱいに言われてみれば確かにそうかも…俵万智さんの歌は、だからこんなにも心に届くのね～
う～ん 気持ち、きもち、きもちねえ……私の心の中は…
いつもいつもせんぱいに怒られて、怒られて、おこられて…メラメラ🔥
なんかだんだん怒りがわいてきたわ！う～～～～～～」

できた！！

愛のむちとわかちやいるけどほどほどに でないと呪うわ！ エコエコザラク
グフフフフフフフ イヒヒヒヒヒヒヒ

『エコエコザラク』◎古賀 新一/著 秋書店 1976

*黒魔術を駆使する魔女「黒井ミサ」が活躍する伝説的ホラーマンガ



シショコ…ネタがマニアックすぎるぞ～みんなに通じるのか？ つづく…かも

文:T.Suzuki イラスト:A.Kawano

編集後記 今回の特集は「どうしても手放せない一冊」。それぞれ、大切な思い出とともに愛着のある一冊となっているようです。ちなみに私の手放せない一冊は「アソナちゃんのねこ」という絵本。昔、まだ幼くてカタカナが読めなかった私のために、母が絵本にひらがなでかなをふって来ていたことを何十年の時を経て発見したあの日、胸がじんと熱くなりました。母の愛を感じる大切な一冊です。(あーちゃん)

編集・発行 北杜市図書館 編集委員:H.Shinohara(明野図書館) T.Suzuki(すたま森の図書館) S.Obi(たかね図書館) K.Taniguchi(ながさか図書館) E.Koizumi(金田一春彦記念図書館) M.Fujimori(小淵沢図書館) K.Masui(ライブラリーはくしゅう) M.Ishiguro(むかわ図書館) A.Kawano(中央図書館)

発行日 令和6年12月1日 問い合わせ 北杜市中央図書館(金田一春彦記念図書館内) TEL 0551-42-1374 創刊号 平成17年3月31日